

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602470
法人名	有限会社 Kふあみりい
事業所名	グループホームみどりのうた
所在地	福岡県久留米市東櫛原町1647-6
自己評価作成日	平成28年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者と主治医との関係を変えず日常の健康管理と医療連携を行っています。 ・小規模多機能型居宅介護との併設により利用者の多様なニーズに柔軟に長期に渡り対応いたします。 ・看取りまでのご利用も可能で、食事制限【糖尿病、腎臓病、心臓病】のある方も積極的に受け入れしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>鳥類センターや総合スポーツセンターに隣接する住宅街の中にグループホームは在り、周囲は緑が多く、恵まれた環境にある。敷地内では薔薇をはじめ季節の花々が育てられ季節感を満喫できる。開設して11年になり利用者の心身機能が低下している中で、家族の協力を得て個別の支援を大切にしており、これまでの馴染みの生活や関係が途切れない支援をしている。職員は、「自分達が入居したくなるような事業所を作りたい」と、ありのままで過ごせる居場所であるよう、個性性を尊重した支援に向けて日々取り組んでいる。地域活動は年々輪を広げており、自然体で交流が広がりつつあり、地域の福祉の拠点として存在を高めている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成28年3月25日	評価結果確定日	平成28年3月29日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の打ち合わせの中で、スタッフ間で理念を再確認しあって、常に理念を意識したケアを実践している。	理念は玄関先やリビングに掲示しており、朝礼やカンファレンスの際に再確認している。「利用者様の自己決定を最優先し、自己実現のお手伝いをします」という項目の大切さと難しさを実感し、機会を捉えては職員に理念を意識したケアの実践を伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子ども会のみこしの休憩場や会議などに施設を開放している。	地域との交流は年々増している。子供神輿の休憩所や会議場所として事業所を開放し、飲み物の差入れやスイカ割りをして好評であった。また事業所の餅付きは、学習支援をしているNPO団体のチャリティーコンサートと同時開催され、家族や地域住民・子供達・退職した職員・行政からも数人参加し、交流を深める機会となっている。オープンガーデンで開かれるティーパーティでは地域住民同士の関心が高まりつつあり、自然な形で町づくりの芽生えが見受けられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員等を通じて、地域の介護相談窓口としての機能を告知する事で、地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催して、事業所の運営状況についての報告を行い、また参加者との積極的な意見交換を行う事で、サービス向上にいかしている。	運営推進会議は毎回十数名の参加者があり、2ヶ月に1回開催している。家族全員に、事前に決めたテーマと共に案内状を送付し、興味ある内容には参加申し出が多く、7名程の参加を得ることもある。多様なメンバー(家族・自治会長・民生委員・包括支援センター職員・行政・消防団や子供会代表など)で事業報告や意見・情報の交換等活発に話し合われ、事業所でのサービスに生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護福祉サービス事業者協議会での活動などを通じて、市担当者との意見交換を行い、協力関係の構築に取り組んでいる。	運営推進会議に行政の職員が参加している。別途困難事例や疑問点を質問している。久留米市福祉サービス事業者協議会の活動や事業所の行事を通じて行政との関わりがあり、事業所の行事に市職員が参加されることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等を通じて、職員全員が身体拘束について十分に理解しており、身体拘束は行わない介護を実践している。	身体拘束のない介護の実践に努めている。禁止対象となる具体的な行為を理解しつつ、安全策確保の工夫をしている。職員は内外の研修を通じて身体拘束について理解を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等を通じて、職員全員が虐待防止について十分に理解しており、職員間で注意しあっている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内、社外研修に参加することで成年後見制度についての見識を深めている。	これまでに制度活用の実績もあり、現在も申請手続き中の方がおられる。経済面だけでなく身元引受人としても関心を持っていただく必要性があり、家族状況を把握しながら、事業所から制度利用を呼びかけている。職員は内部研修や新人研修を通して理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に、施設方針、料金体系等について十分な説明を行い、利用者や家族等の不安や疑問の解消に努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会等の機会を捉えて、家族と積極的な意見交換を行い、寄せられた意見に対して、迅速に協議して対応するよう努めている。	運営推進会議への家族の関心は高く、内容によって参加を申し出る方もいて、毎回参加者が多く、積極的な発言がある。面会に来られた家族からも意見や要望を聞き取り、運営に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全員が参加する会議やユニット会議その他職員が集まる機会に自由な意見を発言できる時間を作りその意見等を運営に反映するように努めている。	今迄全体会議やフロアミーティング・カンファレンス等で意見が出されていたが、最近事業所内にある課題に対し、自主的に自分達でチームを組んで取組むようになった。皆の意見もまとまりやすくなり、報告として議事録が回覧されて来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度の見直し特に、(介護プロフェッショナルキャリアや段位制度)の導入により昇進、昇給などの評価基準を明確にした。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたって国籍、性別、年齢などの基準は廃止意欲と人柄を重視している。	採用に当たって年齢・性別・資格有無等に拘らず、本人のやる気と人柄を大切にしている。意欲があれば派遣社員を正規採用したり、入職後1年かけて新人研修を行っている。スキルアップを希望する職員には、研修を受けやすいよう時間の配慮をしている。職員間で協力し合い、休暇も取得ししやすい雰囲気にある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内、社外での人権についての研修に積極的に参加するよう努めている。	職員の人権教育の大切さを痛感しており、毎年欠かさず内部・外部研修に参加している。時には有料であっても内容の濃いものを選択している。時々職員に社会の現実的な事例を引用しながら、生活上での人権意識の高揚を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修への積極的参加を促し社内では、介護プロフェッショナルキャリア段位の段位取得を推進している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会に所属し、交流会、研修会の参加を通じてサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や無料体験を利用頂くことにより施設と利用者の距離を配慮しています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や無料体験を利用頂くことにより安心していただけるようにしています。また入所時においては、家族、本人の要望を優先し対応するようにしています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず本人と家族のアセスメントをし、求められる介護を将来に及び提供できるか説明し、他の施設、他のサービスも紹介するように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人主導のもと残存機能の維持と生活の質の向上に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新たなる家族との関係を結ぶ為のケアを実践をしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設行事ばかりにとらわれず 個人行 事(なじみの美容室、友人宅、店、お寺、)など途切れた関係の修復を行っています。	家族との絆を大切に維持できるよう、外出は家族にお願いしている。利用者はお寺や墓参り・法事に出席・美容院やお店への買物等、夫々の馴染みの場所に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る場所も小さな社会と捉えて、お風呂の順番など些細なことでも少人数から多人数の時まで配慮しながら生活しています。		
24		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も施設行事や運営推進会議などへの参加を呼びかけたり、相談を受けたり、ご自身の介護体験や思いをお話いただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己決定を最優先とした介護に努めまた困難であっても少しでも妥協点を高くしようとしています。	センター方式を利用して情報を得ている。家族の面会が多く、来訪された際積極的に話し、意向や思いを尋ねたり、汲み取ったりしている。新しく得た情報は追記し、職員間で共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族の心身や環境の変化などを考慮しながらアセスメントを常に見直す事が必要と考える。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック時や入浴、レクリエーション、生活リハビリなどの時、本人の表情・動作・会話の中で状態の把握をするようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・主治医・施設・介護者などのチームでの情報の共通化と共有化を図り介護計画(チームケア)を心がけています。	介護計画書は、本人・家族・主治医・看護師・職員達が意見を出し合い、担当者会議をして作成している。定期的にモニタリングをしながら必要な時にケアプランを見直し、必要な内容を書き足している。情報は関係する職員全員で共有し、一丸となって支援するよう努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録だけでは状態把握ができない時には、センター方式を活用し問題にフォーカスするよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設する小規模多機能型ホームの(人と物を)有効活用することによって、多様なニーズに柔軟に対応しています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りや敬老会への参加や施設との結びつきの強い行事(子ども会の子供みこし)(チャリティーコンサート)(年末の餅つき)などの地域交流に積極的に参加している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を優先しかかりつけ医を変えることなく受診支援を行っている。	これまでのかかりつけ医との関係性を大切に、受診を支援している。その状況は記録として整理され、家族にもその都度報告されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の介護より得られた心身の情報を専門職(看護師、主治医)に連絡し状態報告をし適切な受診と治療を受けれるよう努めています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のカンファレンスに家族と参加し退院までの情報共有と本人の見舞いをしています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえた上で主治医、訪問看護等との連携を図りながら看取り支援に積極的に取り組んでいます。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」を示している。その時期が来たら再度家族と話し合い同意を得ている。医師や訪問看護の協力を得ながら、家族の意向を伺っている。現在該当される方もおり、職員は一日一日を大切に支援を行っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えたマニュアル等を職員に配布し不定期であるが訓練を実施し研修へも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議に参加していただいている消防団との情報共有や年2回災害訓練を実施している。	年2回の昼夜想定防火訓練だけでなく、風水害を想定した災害対策に力をいれている。水と電気の確保の為発電機を設置し、井戸水の利用を決め、寒波の時は井戸水を凍らせないように工夫したり、水道管をテープで巻いたり、お風呂に水を溜めたりと準備をしている。備蓄食品は最低3日分は確保している。	防火訓練に地域との連携を持たれることを希望します。運営推進会議に参加されている消防団の方に協力を依頼してはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本動作の徹底と職員間で指摘しあう事により是正する。	「一人の人間として尊重」することを一番大切にして支援しているが、時には雑になっていると感じることもあり、職員間で互いに注意し合って是正している。接遇についての学びを確認して、実践するよう勧めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助の内容に理解が得られたか確認し選択肢を持たせるよう心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴時間等利用者の意向によってサービス提供をするよう心がけていてほぼ希望に沿うようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	受診や外出の時に化粧やおしゃれに気お使い本人と一緒に支度をする。また行きつけの美容室や訪問美容などを利用している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食事を調理師に作ってもらい同じものを利用者とテーブルなどで食事をする。	厨房で栄養士の管理のもと調理され、多種の食材がバランスよく使用され、食べやすいよう小さめにカットされている。残食の量を確認して次の料理の参考にするなど、細かな配慮がなされている。外食は個別に対応しており、ラーメンやたこ焼き等好きな物を食べに出かけている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	腎臓、肝臓、心臓、糖尿病にも対応した食事の提供と確実に食べてもらうよう工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医の指導を受けながら、個々の利用者の口腔状態に合わせた口腔ケアを実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して、本人の排泄パターンの把握に努め、適切な誘導などで自立に向け対応をしている。	排泄チェック表でパターンを把握し、トイレへ誘導している。おむつを使用している方も定期的にトイレに座っていただき、夜間も含めて排泄の自立に向けた支援に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や食事や睡眠など生活のリズムの管理と適度な運動を管理するようにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間・曜日にはとらわれず本人の体調と意思にそった支援また入浴場所は小規模の入浴療法も活用している。	週3回の入浴日の設定をしているが、本人の希望と体調を考慮し柔軟に対応している。希望者には毎日の入浴も可能である。シャワー浴の方もいるが、できる限りゆっくりと入浴を楽しんでもらっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や消灯時間を定めておらず、本人の生活リズムを尊重しお昼寝やうたた寝も必要な時間として支援しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局との連携で複数病院の処方での薬の重複や飲み合わせなどそれぞれの医師との連絡を取り調整をしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の継続や施設内での軽作業に参加できるよう工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を出来るだけ反映し途切れたなじみの関係を繋ぎなおしたり、継続する事を支援している。	重度化へと移行する中で、皆で一緒に外出することが難しくなっているが、花見に行ったり、本人の希望があれば個別に買物や外食支援をしている。また病院受診の際に一寸遠回りしてドライブしたり、思い出の場所を回ったりしている。戸外での日光浴や日常的な散歩の時間を大切にすると共に、家族の方にも協力をお願いして、出来るだけ外出できるよう配慮している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出支援などで会計をしてもらうようにしている。また買い物等で支払いをもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本にい、家族の意向を確認し電話や郵便の取次ぎをしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、季節感を大事にして華美や幼稚な装飾は避けている。	ソファやテーブル・テレビがあるリビングは窓から公園の木々の緑が眺められ、四季の移り変わりを楽しむことが出来る。庭の草花を飾ったシンプルで落ち着いた雰囲気空間は、家庭での日常的な生活を思わせる。敷地内では季節を通して花が育てられており、心安らぐ環境になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家族、友人の来所時や施設内の利用者同士でくつろげる場所が整備されている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室は施設の意向が働く場所と考えていない宗教、政治も自由である。	居室はフローリングが基本だが、身体的状況や希望によって畳を敷いて対応している。ベットとクローゼットが設置され、その位置は居室の間取りによって若干の違いがある。利用者は使い慣れた筆筒・鏡台・時計や仏壇等を持ち込み、ぬいぐるみや写真、花等を飾り、好みの居室作りをしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の目印やトイレの表記など工夫をし安全で自立した生活を遅れるよう配慮している。		